

金の虻よろめき出でし牡丹かな

藤田湘子

牡丹は「花の王」「花神」とも呼ばれる。その姿形や色、咲き初めの芳香は格別。しかし、花があまりにも豪華であるため、俳句に詠めば類想の山、なかなか許容できる句を得るのは難しいと言つても過言ではあるまい。

掲句中七の「よろめき出でし」の絶妙さ。何気無いようでいて、眼の効いた俳句と感嘆すべき巧みさ。それは、その辺に居るような普通の虻ではなく「金の」と修飾され上五に配置された途端、人間に危害を及ぼす憎き昆虫から尊厳ある生き物として、また擬人化したような足取りの面白さまでもが目に浮かぶ。

湘子七十三歳。この年の十月、鷹三十五周年記念大会が開催されたが、かくしゃく 豊鑠とした足取りであった。

1999年（二一七作）第十一句集『てんてん』 鑑賞・轍郁摩